

奈良県における救急搬送受け入れ困難解消のための 施策の効果と今後の課題

修士課程2年 吉井克昌

背景

- 総務省消防庁公表データ
 - 重症傷病者の病院照会回数4回以上
 - 重症傷病者の現場滞在時間30分以上
- ↓
- ここ数年、全国最下位
- ↓
- 救急搬送の受け入れが困難な地域

目的

- 受け入れ困難解消の施策
奈良県立医科大学附属病院において

土日ER 2015年9月～開始

病院照会回数・救急活動時間

↓ 効果を検討
今後の課題

「土日ER」とは？

- 運用時間帯
 - 毎土曜日8時30分から月曜日8時30分
(年未年始・祝日は除く)
(受付は月曜日7時まで)
- ルール
 - 2回病院照会しても受入先が決定しない場合、受け入れる(内科・外科は問わない)
→ 病院照会4回以上を減少させる
 - バイタルサインが安定
 - 既存のルールがあれば優先する

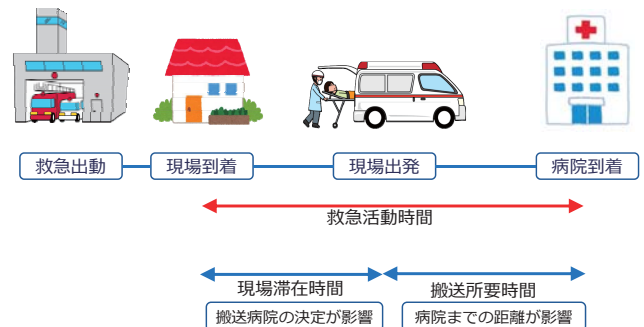
「土日ER」の管轄エリア

- 中和・南和保健医療圏
- 東和保健医療圏の一部
(宇陀市、桜井市、磯城郡)

奈良県立医科大学
附属病院



救急活動のイメージ



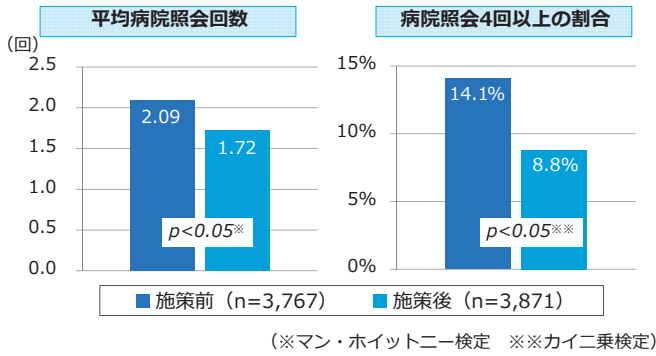
対象データ

- 「対象エリア」「対象時間内」の救急搬送データから病院間搬送を除外したものを対象
- 2014年9月からの6ヶ月間 (施策実施前)
- 2015年9月からの6ヶ月間 (施策実施後)

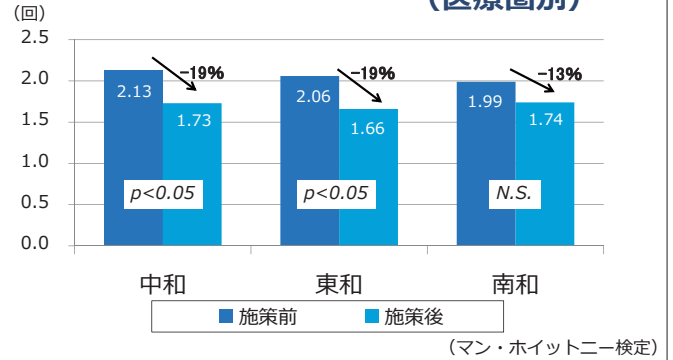
方法

- 「平均病院照会回数」
- 「病院照会回数4回以上の割合」
- 「救急活動時間」
 - ↳ 「現場滞在時間」(現場到着～出発)
 - ↳ 「搬送所要時間」(出発～病院到着)
- ◆ 対象地域全体及び二次保健医療圏別に前後比較

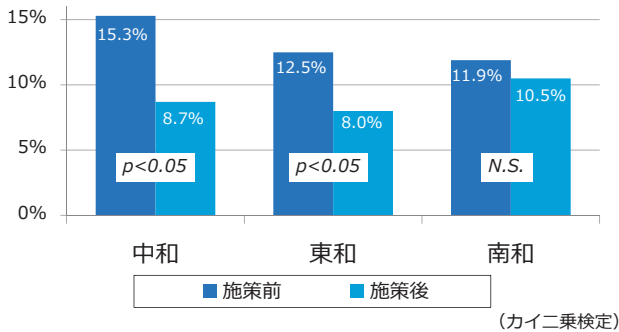
結果① 病院照会回数 (全体)



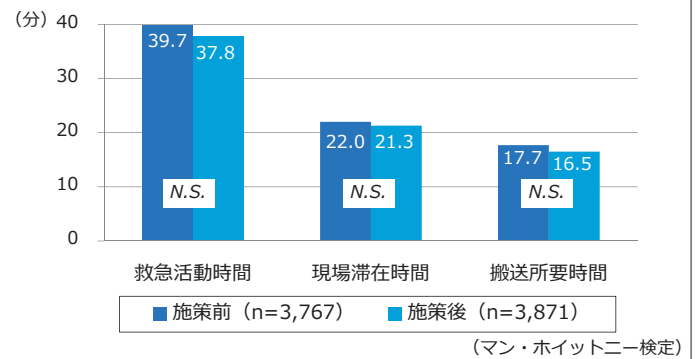
結果② 平均病院照会回数 (医療圏別)



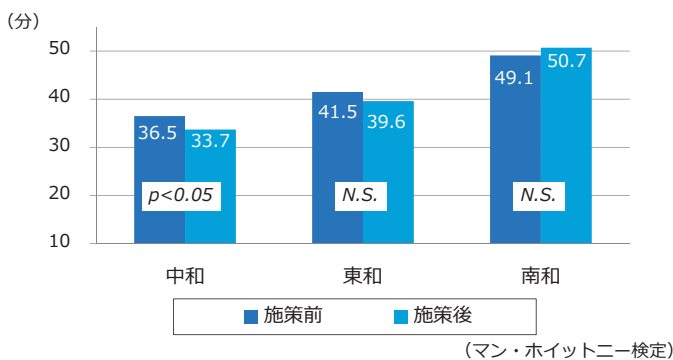
結果③ 照会4回以上の割合 (医療圏別)



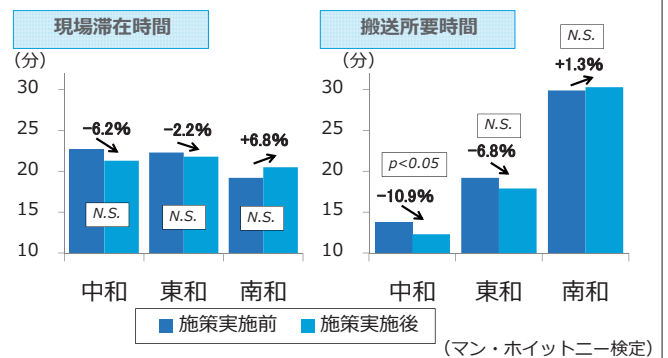
結果④ 救急活動時間 (全体)



結果⑤ 救急活動時間 (医療圏別)



結果⑥ 救急活動時間詳細 (医療圏別)



考察 1 病院照会回数

- 施策のねらいは達成
- 医療圏により効果に差
 - 距離、地域性
- ルールの不徹底

考察 2 救急活動時間

- 現場到着から病院到着の時間→少し短縮
- 病院照会回数減少したが・・・
 - 滞在時間の短縮を認めない
 - 1回の照会時間の延長の可能性
- 搬送所要時間の短縮 → 近い病院を確保
 - 奈良医大附属病院を含む中和医療圏で効果著明
- エリア、実施時間、実施機関などの見直し

今後の課題

- 一定の効果は確認できた
- 管轄エリアの精査
- 実施時間の精査
- 実施医療機関の拡充

まとめ

- 「土日E R」の効果の検討をした
- 近隣医療圏では有効
- 遠方医療圏では効果は小さい
- エリア、時間、実施機関等の見直しが必要